

**YMCAバザー<Y・와・이>フェスティバル 2015> 11月14日(土)** **たくさんのご参加を  
お待ちしております!** **ボランティア  
大募集!**

**11月14日(土)11時~15時**  
**バザー献品・ボランティア大募集!**  
**詳細はYMCA スタッフまで  
お問い合わせください。**

豪華品大抽選会

今後の予定 2015年9月~11月

【東京韓国YMCA】

9/1(火) 関東大震災第92周年記念追悼合同早天礼拝  
9/1(火) 第1回 教会協力委員会  
9/8(火) 第1回 会員活動委員会  
9/11(金) 韓国映画を観る会『シルミド』  
10/7(水) 日本語学校10月期 入学・始業式  
10/9(金) 韓国映画を観る会『酔面仙』  
11/12(木) YMCA・YWCA 合同祈禱会(会場: 東京 YWCA)  
11/13(金) 韓国映画を観る会『アジョシ』  
11/14(土) Yわいフェスティバル 2015 ~ YMCA バザー~

【関西韓国YMCA】

9/5(土) 第10回「このゆびとーまれ」講演会(東成区民センター)  
9/6(日) 神学講座 中道基夫先生講演会(大阪聖和教会)  
9/11(金) 第121回 YMCA 教界指導者早天祈禱会  
9/11(金) 合同拡大委員会  
9/23(祝・水) 生野つながりスポーツ大会(東大阪朝鮮中級学校)  
10/3(土) 第16回枚方多文化フェスティバル(岡東中央公園)  
11/12(木) YMCA・YWCA 合同祈禱会 (YMCA)  
11/13(金) ~ 15(日) 南北코리아と日本のともだち展・大阪展 (I-house)

屋台・掘り出し市・楽器演奏・のど自慢・韓国物産・喫茶

**2015年8月までのその他の活動**

**釜山で学ぶ韓国語2015夏**

YMCA 韓国語講座の夏の恒例プログラムである韓国現地研修が8月2日(日)から8日(土)の日程で、釜山外国語大学にて行われました。

これまでのソウルにある大学での研修でしたが、「ソウルだけが韓国じゃない」をモットーに、より幅広く韓国語と韓国に触れるために場所を釜山に設定してのプログラムは、文字通り、ソウルとはひと味もふた味も異なる釜山の町と言葉に浸った一週間となりました。

**枚方サマースクール**

2015年7月25、26日に第35回枚方サマースクールが行われました。35回目ということでリーダーや先生方の意気込みも相当に高く、例年以上に、子どもたちを楽しませ、これからもずっとこのキャンプを続けていこうという気持ちが伝わってきました。枚方市と大阪市の在日韓国・朝鮮人の子どもたちは、再会を喜び合い、今年初参加の小さなお友達も、お兄ちゃん、お姉ちゃん達がよく面倒を見てくれ、ハングルの名札を作ったりキャンプファイヤーで韓国語の歌を歌ったりしながら、自分たちの民族について楽しく学んでいました。(趙蘭水)

**韓国映画を観る会**

会員活動委員会の主催により、毎月第2金曜日の午後6時30分からYMCA 3階教室で、韓国映画DVDの鑑賞会が行われています。この10月で開始から2年を迎えますが、この間、一度も休むことなく開催されてきました。毎回の上映作品は、過去10年の間に公開された名作を中心に取上げています。

9月11日は、韓国政府が極秘に進めた金日成首相暗殺計画にかかわった工作部隊の実話を基にした作品『シルミド』、10月9日は、朝鮮王朝時代後期の画家・張承業の生涯を描いた『酔面仙』、11月13日は、2010年度の韓国興行収入1位を記録したウォンビン主演のハードボイルド作品『アジョシ』をそれぞれ鑑賞します。

入場無料。  
ご覧になりたい方は、当日YMCAに直接お出かけください。

**SILMIDO**  
**酔面仙**  
**アジョシ**

**【編集後記】**

- 保護した子ネコと暮らすことになりました。名前は鳴き声からミミ。安直です(笑)(才)
- 夏休み、ソウルでリフレッシュしてきました。忙しい秋も頑張ります!(た)
- 三十年続いた喫煙習慣と縁を切った結果、吸っても吸わなくても人格は向上も劣化もしないという知見と、一ヶ月当たり一万数千円のお小遣いを得ました。(白)
- 空はもう秋、吹く風にも秋の気配が(と)

**YMCA東京日本語学校 学生募集中**

**韓国語講座 10月期新規開講**

**KAKEHASHI かけはし 2015 Sep. vol.20**

発行人: 金秀男 発行: 在日本韓国YMCAアジア青少年センター  
〒101-0064 東京都千代田区猿樂町 2-5-5  
TEL: 03-3233-0611 FAX: 03-3233-0633  
http://www.ymcajapan.org/ayc/jp/ ayc@ymcajapan.org

**『かけはし』次号は2015年12月発行予定です。**  
Twitter: @zainichiymca Facebook: Korean YMCA in Japan  
より良い紙面づくりのために、ご意見・ご感想等お寄せください。

**在日本韓国YMCA アジア青少年センター**  
**Korean YMCA in Japan Asia Youth Center**

**かけはし**

**解放そして戦後70年によせて**

李省展 (東京韓国YMCA 理事、恵泉女学園大学教授)

今年の夏は記録的な暑さでした。それに誘発されるように東アジアの政治状況も熱さを増したように思えます。戦後70年を迎え、各国の過去に対する立ち位置の違いが鮮明になった夏でもありました。

何といても世界的に注目を浴びたのは、安倍談話だったといえるでしょう。東アジアでも、植民地支配と侵略を認め謝罪した村山談話(1995年)と、安倍談話との違いが改めて意識されました。村山談話は「植民地支配と侵略によって、多くの国々、とりわけアジアの諸国の人々に対して多大の損害と苦痛を与えた」と認め、「痛切な反省の意」と「心からのお詫びの気持ち」を表明しています。村山談話で初めて植民地支配への反省が明らかに示された意義は大きいと考えられます。

この村山談話が日本のキリスト教界に与えた影響もまた大きなものでした。韓国と日本の国交樹立という新時代を迎えて、鈴木正久牧師により出されたのが、日本キリスト教団の戦争責任告白(1967年)です。この戦責告白はアジアの諸教会から歓迎されましたが、「『世の光』『地の塩』である教会は、あの戦争に同調すべきではありませんでした」とする告白には残念ながら、植民地支配に

関する言及は皆無でした。キリスト教界で植民地支配に対する反省を真摯に表明したのが、日本聖公会です。戦後50年の翌年に出された日本聖公会の戦争責任宣言には「戦後50年を経た今、戦前、戦中に日本国家による植民地支配と侵略戦争を支持・黙認した責任を認め、その罪を告白します」と宣言されています。

**【2面に続く】**



日本の侵略に抵抗した朝鮮の義兵

**聖書に聴く 第20回 金迅野 牧師(キム・シンヤ/在日大韓基督教会 横須賀教会)**

**マルコによる福音書3:3 など**

新約聖書のなかには、「手の萎えた人」(ルカ6:8)や「子ども」(マタイ18:2)や「姦通を犯した」女性(ヨハネ8:3)など、イエスに「真ん中」に来るように呼ばれたり、世間でいう周縁と同じ意味の「真ん中」にイエスとともに遺棄される人々が描かれています。イエスが挑戦的に堂々と病人や差別されている人を真ん中に立たせたのだと説明されることがあります。たしかに、わたしたちは、マイノリティこそが社会の中心に据えられるべきだというメッセージを、これらの聖書から読み取ることができます。

しかし、そもそも、ここに登場するマイノリティとはどのような人々だったのでしょうか。誰も顧みてくれない病を持つ人。まっとうな人間と認識されることなく未熟な存在としていつも社会の周縁に追いやられていた女性や子どもたち。イエスが「真ん中」に来るように招いたり、ともに居ようとした、そのような人たちの「声」を、実は、聖書は記録していません。それらの人びとの「声」、いえ、声にすらならない「声」を、ただイエスのみが聴いたということなのかもしれません。ひよっとすると、イエスは、「声なき声」を聴くことの力を並外れて持っていた方だったのでしょうか。

あたりまえのことですが、聖書の物語が語るその語りの外部にも、多くの「声」や「声なき声」が佇んでいるはず。そこに書かれていない、描き得ない事柄は、「いわずもがな」で省かれたということもあるでしょう。しかし、イエスの「真ん中」への招きが、人びとがずっと聞き逃し続けてきた「声」をこそ聴くべきだということだとしたら、わたしたちは、いま、聖書から何を読み取るべきでしょうか。

「語り得ないものについては沈黙しなければならない」。20世紀の哲学者はそうように語りかけました。容易に触れることができない事柄、とりわけ人間の負った深い傷の前で、畏れをもって、或る不可能性を噛みしめることは、人間の尊厳を考えると、もっとも大切な構えと言えるでしょう。

しかし、「語る言葉を持ち得ない」ために「語り得ない」ような事柄が放っておかれ続けた末に、「なかったこと」にされてしまうということはないでしょうか。そのような「声」が、いえ「声なき声」が指し示す事柄が「なかったこと」にされないためには、誰が何をどう証言すればよいのでしょうか。21世紀の哲学者は、「証言」は「非一人間と人間の非一場所において生起する」と言いました。あるいは、「語り得なさ」をこそ証言しなければならないと。

90年余り前、関東大震災を経験して言いしれぬ不安に駆られたこの地の人々がデマに煽動されて殺した朝鮮人たちの「声」は「いま、ここ」にはありません。故郷で心ない人びとに「国辱」と言われ、最も聴かれなければいけない人びとに耳を塞がれ続けられた「従軍慰安婦」と呼ばれる女性たちの「声」。沖繩戦の時に「集団自決」を強いられた大人たちの姿を目撃してしまった「子どもたちの声」……。それらの声は十全に聴かれたのでしょうか。「いま、ここ」で発せられることのない、人間の、そして「非一人間」の、「声なき声」を聴くこと。それがイエスの言う「真ん中」の一つの意味だとしたら、わたしたちは、何かを滔々と語るのではなく、「語り得なさ」をこそ語る「証人」になるべく、いま、呼び出されているのかもしれない。

【1面から続く】

村山談話後に、この宣言が出されていることに注目すると、政治がまさに民間をリードしたといえます。では安倍談話の植民地に関する言説はどのようなものだったのでしょうか。

安倍首相は、韓国や中国からの牽制もあり、また協定国であるアメリカからも大きな圧力を受ける中で談話を練り直さなければなりません。実際、談話には間接引用が多く、その語り口や表情からも本心ではない部分を見出したのは私だけではないと思います。その中で植民地支配に関しては、19世紀の西欧の植民地支配の潮流に対する危機感が日本の近代化の原動力となったこと、日露戦争がアジア、アフリカの人々を勇気づけたこと、第一次世界大戦後は植民地支配にブレーキがかかったこと、植民地

支配からの永遠の決別が示されました。しかしそこには日本を主語とした植民地支配責任は見事に欠如しています。ましてや日露戦争が契機となり大韓帝国は植民地となってしまったことを考えると、日露戦争に対する称賛は大いに疑問です。戦争とは対照的に植民地支配に関しては、安倍首相は自説を通したともいえるのです。

村山元首相は、安倍談話は村山談話を継承していないと不快感を示しました。朴大統領は、残念な部分はあるがとしながらも政治的な判断で受け入れています。しかし、村山談話に比べると植民地支配に関しては明白に後退していると考えられます。村山元首相の「継承していない」という判断の一つには安倍談話の植民地支配責任欠如にもあったのではないかと私は思っています。

## 連載 東京の中の韓国を巡る

### 【番外編～戦後70年(解放70年)を迎え、在日本韓国YMCAの使命を考える～】

才門勇介(「かけはし」編集委員)

2015年は日本としては「戦後70年」、同時に、朝鮮半島にとっては「解放70年」の年に当たります。8月を迎え、韓国国内で色々な祝賀行事や特赦まで行われたこの節目に、「東京(日本)の中の韓国」の番外編として、在日本韓国YMCAの使命を考える回にしたいと思います。



力道山

これは若者たちの無知からくる愚かさだ、と簡単に批判することは出来ません。歴史や過程は、歩んできた、見てきた者たちから伝えられ、また共有されていくべきものです。

「和解と共生」そのものをテーマと掲げる「在日本韓国YMCA」は韓民族の歴史の中で、いわば最前線ともいうべき場所です。共生の歴史の中で、70年という節目を迎え、もう一度、歴史を振り返り、その継承の場となる使命があります。

## 東日本大震災被災地支援募金継続実施中

### 募金の送り先

窓口持参または郵便振替で下記にご送金ください。  
(「東日本大震災募金」とご記入下さい)。

00190-4-539049 在日本韓国 YMCA

東日本大震災の被災地支援を目的として  
「YMCA東日本大震災被災地支援募金」を引き  
続き受け付けております。

## 2015年6月～8月のプログラム

東京韓国YMCA  
関西韓国YMCA

### 東京韓国YMCAの活動

#### YMCA日本語学校 夏の東京体験



YMCA 東京日本語学校では、7月13日から8月1日まで毎年恒例・夏の短期研修「夏の東京体験」を実施しました。今年は香港から6名、台湾から13名の計19名が参加し、午前中は日本語の集中授業を受け、午後は各自ガイドブックを片手に色々などころに出掛けながら日本語の会話力を大いに向上させました。

期間中には「わくわくフォトラリー」と題したアクティビティを通してボランティアと交流する時間や、1泊2日のショートホームステイも企画し、授業以外で日本語を使う時間を多く設けました。

また、昨年の夏に好評だった浴衣プレゼントを今年も実施し、自分たちで着付けが出来るようにとの試みでの日本文化体験も実施しました。週末のお祭りに着て行ったりと、今年の浴衣プレゼントも好評だったようです。

初日は不安だらけの表情を浮かべていた学生たちでしたが、最終日の修了式では「帰りたくない」「友達と離れたくない」と言いながら涙を浮かべている学生もいました。学生たちにとって一生忘れられない体験となってくれたら私たちもとても嬉しいです。(春日優)

#### サマースクール～子ども多文化探検隊～

8月3日から2日間に渡り開催された2015年度のYMCAサマースクール～子ども多文化探検隊～。初日の「コリア・サマースクール」は、18名の子どもたちが集まり、YMCAで行われました。日韓両国語によるテーマソングの合唱、ハンゲルでの自己紹介に続き、韓国語遊びや伝統遊戯に触れ、大はしゃぎの子どもたち。みんなとすぐに打ち解け、宝もの探しゲームでは元気いっぱい走り回り、協力し合いながら見つけ、連帯感を育みました。その後、韓国の人気アニメ「ポロロ」を鑑賞し、お昼ご飯には、家庭料理であるキムチチャーハンと韓国のおやつを食べて元気回復!更に伝統遊戯のコンギ、チュギチャギ、トゥホを楽しみ、チャングを叩いてドンドン・クンタクン。子どもたちの活気と笑顔が終始溢れていました。



連日の猛暑のせいもあってか、2日目「大久保探検隊」に参加した子どもたちは6名でした。暑さ対策のため塩飴と給水休憩をはさみながら、媽祖廟(台湾のお寺)、韓国・朝鮮の伝統楽器を扱うお店、ハラル食材(イスラム教徒のための食材)のお店やイケメン通りなどを元気いっぱい巡りました。今回はそれぞれの場所にいる方に、出身地・名前・その国の挨拶を子どもたちが直接質問をするということにチャレンジしました。YMCAに戻ってからは、みんなと大久保で買ったお菓子を食べながら、出会った人の国がどこにあるのかを地図上で探してみました。参加した子どもたち自身も様々なルーツをもっており、日本が多文化社会であることを改めて感じる一日となりました。(李善幸/裴秉甫)

### 関西韓国YMCAの活動

#### 韓民芸科BBQ



7月18日(土)韓民芸科1学期最終日、恒例の打ち上げBBQをYMCA 玄関前にて行いました。4月のフェスティバルで裏方を務めてくださった方々、メンバーの家族も参加して大いに飲み、食べ、話し、歌って、35名が交流を深めました。そして、メンバーと先生が今後の課題や抱負を共有し、2学期の練習開始を期待して散会となりました。(小林利子)

#### 生野つながりキャンプ



生野地域活動協議会主催の「生野つながりキャンプ」が、今年も7月31日(金)紀泉わいわい村で行われました。開会礼拝、ハンゲルも入れての名札作りと自己紹介を終えてからダッチオープンを使った野外料理に挑戦。昼食後はお待ちかねの川遊びで、夏の一日を楽しく過ごしました。今回は生野にある2教会から10名の子どもたち、プール学院高等学校から2名のボランティアリーダーが参加し、委員を含め総勢17名の参加でした。(小林利子)